

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム地利目木
(ユニット名)	B ユニット
所在地 (県・市町村名)	新発田市佐々木2610
記入者名 (管理者)	青木 徹
記入日	平成 21年 10月 1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者が安心して生活できることを目標に、地域に根ざしたグループホームとなれるよう理念を策定している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議、ユニット会議において、理念に対する思いや方針を伝え、職員らが意識して取り組めるように努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌の配布等にて、ホームの取り組みをお伝えしている。地域の皆さんがグループホームの行事に参加されたり、見学にこられた際などにもその旨お伝えするようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会への参加により、回覧板での行き来に加え、地域の行事の際やグループホームにお招きする等、顔なじみの関係が築けつつある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校行事や地域の祭礼、作品展への出展等、地域住民との交流を図っている。また、地域の学校のボランティアや総合学習などの受け入れも行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>施設見学会をはじめグループホーム行事や地域の集会への参加の際、介護に関する素朴な疑問や相談等をお受けする時間を設けている。年を追うごとに交流が深まっているので、随時取り組んでいきたい。</p>		<p>認知症への理解や啓発活動などを定期的に地域住民の皆様に行えるようにしたい。</p>
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員会議・ユニット会議において自己評価及び外部評価を実施する意義を説明し理解している。また前年の評価を活かして改善につなげるという全体の流れが職員間でも定着してきている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において状況報告を行い、いただいたご意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは運営推進会議以外にも連絡を密に連携しサービスの質の向上に取り組んでいる。昨年の評価における改善点を相談した結果、他法人を含む3事業所合同での施設見学会が実現した。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年、申請を行ったご利用者・ご家族からの相談で職員の多くも実際のものとして経験する機会を得た。その際、職員やご家族の理解を深めるための資料を渡したり、説明するなど配慮した。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法に関する研修会を開き全職員で学ぶ機会を設けた。ホーム内でも虐待のないよう特に注意を払っている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	説明が一方的とならないよう特に注意しながら説明を行い、理解・納得を得た上で契約を締結している。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者が意見・不満・苦情を表せるよう、運営推進会議に参加していただいている。ご意見は職員会議・ユニット会議にて運営に反映させている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、書面にてご利用者の日々の暮らしぶりや健康状態や受診の結果、金銭出納長の写しをお送りしている。職員の異動があれば書面やご家族の集まる席にて説明させていただいている。また、ご家族来訪時には、ご利用者の日々のご様子が伝えられるよう、多く時間が割けるよう工夫している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会の折に、できるだけご家族と話し合ったり、話しかけやすいホームの雰囲気作りに励んでいる。運営推進会議にご出席頂き意見を表せる機会を設けている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員会議や法人会議及び懇親会等設け、職員の意見や提案を運営に反映できるよう努めている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	管理者はできるだけシフトに入らず、急な要請に対応できるよう若干余裕のある職員配置を取っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動や離職がある際は、利用者へのダメージを最小限に抑える為、引継ぎに十分注意を払っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人・中堅・管理者の三段階に分け法人内研修を行った。また事業所では外部から講師を招きケアプラン研修を行った。他内部研修も行っている。外部研修にもできるだけ参加している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新発田市内のグループホーム2事業所と連携し、職員の交換研修、見学会を行った。また、新発田市近隣のグループホーム及び小規模多機能19事業所による地域密着型サービス事業所交流会にも管理者、職員とで参加し、相互訪問や外部との繋がりを通じてサービス向上に活かしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内の事業所職員との交流や、事業者の懇親会を定期的に設け、ストレスの軽減を図っている。また、職員休憩室はホールから少し距離を置いてあり、畳を敷いた環境で静かにゆったり休憩できるよう配慮している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けて適宜支援している。今年度から資格手当を設けた。運営者は定期的に事業所を訪れ、現場を確認し指導している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接の際に、ご利用者とご家族から生活状況や様態、これまでの生活歴を聞き取り、利用に係わる希望を把握できるよう努めている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホームを見学していただいた際や事前面接の場、または電話でもご家族とよく話し合う中でご家族の要望の実現と不安の解消に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急を要する場合や相談をしている中で必要としているサービスが異なる場合でも、他事業所の紹介や説明等の支援を適切に行い、ご利用者と家族の負担軽減に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の了承が得られるよう話し合いの場を設け、できる限り安心して入居できるようにしている。不安を感じられることもあるので、ホームに立ち寄っていただき見学やご利用者と過ごす時間を設けるなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事・手伝いを始め様々な活動に意欲的なご利用者が多いこともあり、学ばせていただく場面、支援させていただく場面のバランスが取りやすい環境にある。これからも学ばせていただくという姿勢を大切にしていきたい。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の存在があっこそグループホームにおいても穏やかに暮らしていくことができると強く感じており、何事にも相談しながら支援し、関係の継続と共に支えあう体制となるよう十分に留意している。ご家族とご利用者が共に食事作りを行う会を設けた。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係上、ご利用者と疎遠になっている家族もおられるが、ご利用者のお気持ちをさりげなく家族に話したり、定期的の様子を報告するなど、ご利用者と家族の橋渡しができるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に関しては、一部の方がお電話やお手紙で連絡を取り続けている。場所に関しては、買い物や外出時に出来るだけ馴染みの場所に行けるよう支援に努めている。また、定期的に個人的に行きたい場所をお伺いし計画を立て実行している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で、ご利用者同士の意見の食い違い等で、一時的な孤立は見られるが、ご利用者同士の関係を把握しており、職員が間を取り持つ事で、お互いに支え合えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、ご利用者と共に訪問させて頂いたことがある。ご本人のスムーズな生活移行のためにも関係を断ち切らないつきあいを大切に考えている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご利用者がさりげなく本音を伝えられるような雰囲気作りに留意し、ご利用者がどう暮らしたいのかをご利用者の目線で考えるように努め、ご本人への聞き取りのみならず家族にも相談しながら、一つずつ意向に沿えるように進めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツール(センター方式)にて、職員皆で生活歴、暮らし方を把握し、情報共有に努めている。全ての情報を把握しきれていないが少しずつご利用者や家族からお話を伺っていききたい。		プライバシーに気をつけながら、これまで以上にご家族やご利用者との話の中でよりよい情報が得られるよう、信頼関係を築いていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お一人おひとりの生活リズムを大切に、心身の状態に合わせて活躍して頂けるよう、現状の総合的把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを複数の職員で行い、課題の把握とケアの向上に生かしていけるよう努めている。ご利用者には日々の関わりの中でご本人の意向を把握し介護計画に反映できるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の評価と共に、介護計画とご利用者の状態がそぐわない場合は直ちに介護計画を変更している。介護計画は少なくとも1年に1回は見直しを行うようしており、職員とご利用者・家族と話し合いながら介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録、受診記録、家族記録、健康記録等を備え、各種記録を一冊にまとめており、変化に気付きやすくしている。また、夜間ケア、日中ケア、介護計画に基づいたケアについて色別に記録しており、介護計画に反映できるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援は、基本的に全て職員が対応しており、ご家族の要望があれば家族の付き添いもお願いしている。日常生活の中で買い物支援、受診支援が可能となるようシフトを組むようにしており、その都度柔軟な対応が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に相談し、地域の老人クラブから踊りのボランティアに来ていただいたり、コミュニティーセンターへご利用者の作成した作品を出展する機会を設けたり、図書館を利用したりとご利用者の意向に沿って利用させていただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行事の際に見守りボランティアをお願いしたり、利用者の身体状況に応じて訪問理美容を活用している。運営推進会議等の機会を通じて助言も受けており、今後も地域のボランティアなどを活用していきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターや市町村とは、運営推進会議や日々連絡を取り合うことでご本人の意向や必要性に応じて協働しているといえる。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医をかかりつけ医にする場合でも、ご利用者と家族に説明の上同意いただいて受診支援を行っている。希望するかかりつけ医への受診も行っており、個々の要望に応じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	一部の医療機関に専門医がおり、受診の際には職員が相談したり、ご利用者の診断や治療が行われている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の事業所に勤める看護職員と連携が取れており、日常的に健康管理や医療活用の支援ができています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者、ご家族も交え情報交換や連絡、相談に努め、早期の退院実現に努めている。また、職員と共に仲の良いご利用者をお連れし、定期的に訪問することにより安心して過ごせるよう努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	嘱託医との医療連携が成立し、重度化対応への道が開けたことにより、説明会においてご本人及びご家族から終末期のあり方について方針を確認することができた。お一人おひとりの意向に関して嘱託医と繰り返し話し合い、対応に向けた準備を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者がまだおられないが、事業所の定めた指針を基に、ご利用者とそのご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医、嘱託医や職員がチームとして支援に取り組める状況が整いつつある。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や退所に伴いご利用者が住まいを替える場合は、サマリーを手渡すと共に、職員が訪問し情報共有に努めたり、ご利用者と過ごす時間を設ける等、ご利用者のダメージに配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者の性格や習慣に合わせた言葉かけを行いながら、親しみある関係作りの中でも誇りやプライバシーを尊重できるよう、会議のたびに指導している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、個人情報保護のためのマニュアルに沿って適切に対応している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>安全に配慮しながらも、できるだけ制限なく自由に暮らせるように職員間で意志を統一し、希望の表出できる環境、個々の能力に合わせた支援に努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の生活の流れはおおよそ決まっているものの、勤務時間や業務の見直しを行った結果、外出や買物、入浴等、よりご利用者の希望に沿える支援が可能となった。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>更衣に関しては、自ら自由に選択されているか、選択できない場合も職員が付き添い意見を伺う等してその人らしい身だしなみができるよう支援している。また、買い物の際にもできるだけご利用者が納得した衣類や整容の備品が購入できるよう、時間をかけて選んで頂いている。理美容に関しては、ご本人の望むや訪問理美容も使っていただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者の力を生かしながら、買い物、下ごしらえ、調理、片づけを職員と共に行っている。献立は1ヶ月毎に作成して、バランスの取れた食事を心掛けている。また、ご利用者と共に畑にて野菜を栽培し収穫した野菜を調理に使い、皆さんの楽しみの一つにもなっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物の際に、ご本人の望むお酒や飲み物、おやつ等購入し、その日の健康状態に合わせて飲食していただいている。ご利用者の嗜好を把握できるよう努め、お一人おひとりが楽しめるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の状態に応じて排泄チェック表を用意し、排泄リズムを把握することによって、トイレ誘導や声かけを行いりハビリパンツが尿取りパットで済むような、できるだけ気持ち良い状態で過ごしていただけるよう支援している。また、尿取りパットの交換などは、羞恥心に配慮してさりげなく行えるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中の中の入浴が主となっていたため、職員の勤務時間を変更し、午後・夕方と人員を厚く配置することによって、自由な時間での入浴が可能となった。お一人おひとりがよりくつろぎながら入浴を楽しめるよう支援していきたい。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の活動状況や体調に応じてご自身で休息されたり、休息していただけるよう声かけを行っている。できるだけ自由に活動と休息が取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りやお掃除、歌や踊りなど、ご利用者の生活歴やできること、したいことに沿って役割をもって生き生きと生活できるよう支援している。また、毎日の買物をはじめ散歩や外食、ドライブの日を設けて、ご利用者の要望に応え、様々な場所へと出かけ気分転換となっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は特にご本人にお金を払っていただけるよう支援している。ホーム内では、お一人おひとりの希望や力に応じた支援を行っており、あるご利用者は数万円所持され、あるご利用者は紛失の心配から小額を所持されている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食料品の買い物や個々の希望物品の買い物など希望に応じて適宜外出している。毎月外食・ドライブの日を設け、遠くまで出掛けたり神社の参拝をしたりできるだけ外出できるようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご利用者合同での外出支援に加え、「個人外食」と称し、ご利用者個々の要望に応えられる外出支援を平行して行っている。要望が添えば数名の外出となるが、この「個人外食」は、お一人おひとりの個性に特化した外出支援としてご利用者から好評を得ている。		ご家族と合同外出の機会を設けているが、今後は、合同イベント以外にもご家族単位で職員が付き添い、外出できるように取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の要望に応じてご本人自ら電話ができるよう支援している。また、ご家族や大切な人宛ての年賀状を書いていた		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人等、来訪時は居室やソファコーナー等、自由に使用していただきながら、プライバシーを大切に居心地よく過ごせるよう配慮している。また、いつでも気軽に訪問していただけるよう、お便りや電話等を通じても伝えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないためのマニュアルが整備されている。職員は身体拘束が行われないよう、日々職員同士お互いに意識しながらケアにあたっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開けているが、外出や受診等、職員の見守り体制が手薄になるような時間帯に一時的に施錠する場合がある。テラスは常時開放している。夜間は防犯上の理由で施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は全体を見渡せる位置(食堂周辺)を基本位置に、全体の状況把握に努めている。状況を見て関わりを持つべき時間とプライバシーを優先する時間を使い分けられるよう努めている。また、夜間は定時に巡回を行いプライバシーと安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者お一人おひとりの状態に合わせて注意の必要な物品を把握できるよう努めている。安全を優先させながらも、ご利用者の制限を強めないよう、バランスを取ることに気をつけている。お薬や包丁はご利用者の手の届かない場所で管理しているが、その他の日用品や洗剤等は、職員の目の届く所を基本に管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議やユニット会議において、各職員の経験した事故やヒヤリハットについて話す機会を持ちながら、ホームのご利用者個々に起こる可能性のある事故を防止できるよう経験の共有に努めている。また、実際に起こったヒヤリハット・事故に関しては、改善策と評価を行うことで再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に職員と共に応急手当に関する内部研修を行っている。救急救命講習は年1回行うことにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下に避難訓練を行い、消火器の使い方や避難方法の訓練を行っている。火災に限らず、震災や水害など災害全般に関する消防マニュアルを整備し、非常事態に備えている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご利用者には、楽しく生きがいを持って生活していただいと考えているため、活動は盛んになる反面、お一人おひとりのリスクは高くなることをご家族にも理解していただけるよう説明しながら、リスク軽減のための努力も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックをはじめ普段の健康状態を記録によって把握し、情報共有をしている。定期的な往診での報告、相談に加え、異変に気づいたら職員、管理者に相談し、状況に応じて受診支援を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに処方された薬の効能書きを保管し、薬の内容や容量を把握できるようにしている。受診記録の整備と、服薬マニュアルの徹底を図り、適切に服用できるよう十分留意している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味のご利用者には体操をプラン等に盛り込むなどしている。野菜を多く取り入れ、ご利用者の嗜好に配慮して代替食の提供等にも努めている。個々の排便リズムを把握し、状態変化に応じて援助するようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促しており、夜間は義歯洗浄を実施している。口腔ケアが自立されている方は定期的チェックを行い口腔内の状態を把握している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個々に記録、水分摂取量は大まかではあるが把握し、1日5回程水分補給を行っていただけるよう促し、その他はご自分のお好きな時にお茶などを飲んで頂いている。栄養のバランスについては、法人内の給食担当者会議や、グループホーム事業所同士で会議を行い、栄養士の指導を反映させている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに基づいてご利用者、職員共に手洗い、うがい等徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに基づいて、調理用具等の管理を行っている。冷蔵庫・保管庫の管理を定期的に行い、食品管理も徹底している。買物を毎日行うことにより、できるだけ新鮮な食物を得よう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲にわかりやすい看板を設置し、テラスにて育てている花々が見え家庭的な雰囲気を要している。玄関周囲にもプランター等で飾り親しみやすく温かみのある雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のどかで閑静な土地環境と天窓から差し込む柔らかな光に加え、木を多く使用した居住環境の中で、ご利用者たちとの会話や家事をお願いしながら居心地よく過ごしていただいている。共用スペースの装飾は、ご利用者と相談しながら季節に応じて飾り付けしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、畳コーナー、ソファのスペース、玄関ホール、テラスのベンチと様々な場所でご利用者同士が思い思いに過ごされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の居室に泊まることが可能である。居室には本人の使い慣れたもの、好みのものを本人・家族と相談し取り入れている。日常の買い物でもご利用者と共に相談しながら購入している。		ご利用者によって、馴染みのものが多く持ち込まれている方と少ない方の差がある。ご本人とご家族に相談しながら居心地よく過ごせる空間作りを支援していきたい。また、ご利用者の状態によっては衛生面や危険防止のため居室の物品を少なくさせていただいている方がいるため改善したい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気のおよみがないように、換気を適宜行っている。温度調節は、ご利用者の状態を把握し、確認を取りながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間には壁つたいに手すりを設置している。共有空間中央部には机を配置し、安全を確保できるよう工夫している。浴室には滑り止めマットを敷いている。また、ホーム全体はバリアフリー構造となっており、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お一人おひとりの力を把握し、力に合わせた対応を心がけている。居室入り口に暖簾をつけたり、ご本人が理解できるレイアウトを施し、トイレ付近には位置が把握できるように目線に合わせた目印を付け、共同生活において混乱や失敗による孤立を生まないよう配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周りには、畑や花壇があり、散歩されたり畑仕事や草とりを楽しまれている。ホームのテラスには季節の花々をご利用者と共に育てており、水やりやベンチに座っての花の鑑賞、お茶を楽しまれている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年の自治会入会を機に、地域の行事やグループホームの行事を通じて地域住民との交流が盛んに行えるようになり少しずつ地域に馴染んできている。ご利用者にとってホームで過ごすことが日常であり、我が家であると感じていただけるように努めている。また、ご家族にとってご利用者が安心して暮らしていると実感していただけるよう関係性の継続と信頼関係の構築に努めている。